

編集後記

遅くなりましたが、2014年6月号をお届けします。まず、巻頭言は手嶋先生に「FIA愛好家のすすめ」と題していただきました。確かに学会はどのような魅力的なサービスを会員に提供できるかで価値が決まります。本誌もその重要な役割を担っており、改めてそのことを肝に銘じました。今回は英文併記でお書きいただきました。ありがとうございました。

指標は小川商会・高知大学の樋口先生よりご寄稿いただきました。二つの職場を通じた貴重なご意見を拝読しました。産学の両方の立場からFIAの分析手法としての優位性を論じていただき、改めてFIAが優れた分析手法として育っているということが実感出来ました。

河原先生からはパーソナルレビューの「分かれ道—後編—」をいただきました。毎回写真も含めて楽しみに拝読・拝見していましたが、今回は特に12ページに及ぶ大作で、ご苦労様でした。

ミニレビューは酒井先生のグループからSIEMAについて、水口先生からはフロー電極に使用できる多孔電極についてご寄稿いただきました。研究論文として、タイのSaitienperakuさん、および島村先生よりの投稿を掲載しました。また、中村先生にはJISの改正概要について解説記事の第2報をいただきました。

トピックスには大平先生より中空糸膜とイオン液体の組み合わせによる新しい分析

法について解説していただきました。また、高知大学の中島先生からは食品産業や美容で重要なクロシナーゼ活性の測定方法について解説していただきました。

報告は、Christian先生、受田先生より本年1月にタイで開催されたシンポジウムの概要について多くの写真とともにご寄稿いただきました。また、小川先生からはその少し前に開催されてPACCON2014について報告していただきました。これらの記事は写真が美しく、WEBに掲載されるカラー版を是非ご覧ください。愛知工業大学の山下さんからはKate研の楽しい滞在記を書いていただきました。学会情報は今回も竹内先生にまとめていただきました。

最後に郡山の分析化学討論会前日に行われた本年度第一回の編集委員会の様子をお知らせいたします。重要な議題として、研究論文の投稿数減少に対する対策を議論しました。対応策として、一年間の投稿論文の中から優れたものを編集委員の投票で表彰する制度(JFIA Selection)を正式に決定しました。今回の〈おしらせ〉に詳細を掲載していますのでご覧頂き、是非ご投稿頂ますようお願いいたします。

以上、皆様のご協力の下、今回も充実した内容の本ができましたことをうれしく思います。今後とも、近況を含め、皆様からの積極なご寄稿をお待ちしています。

JFIA 編集委員長 長岡